

共創学部

現在を
未来を
共に創る

School of Interdisciplinary Science and Innovation(ISI)

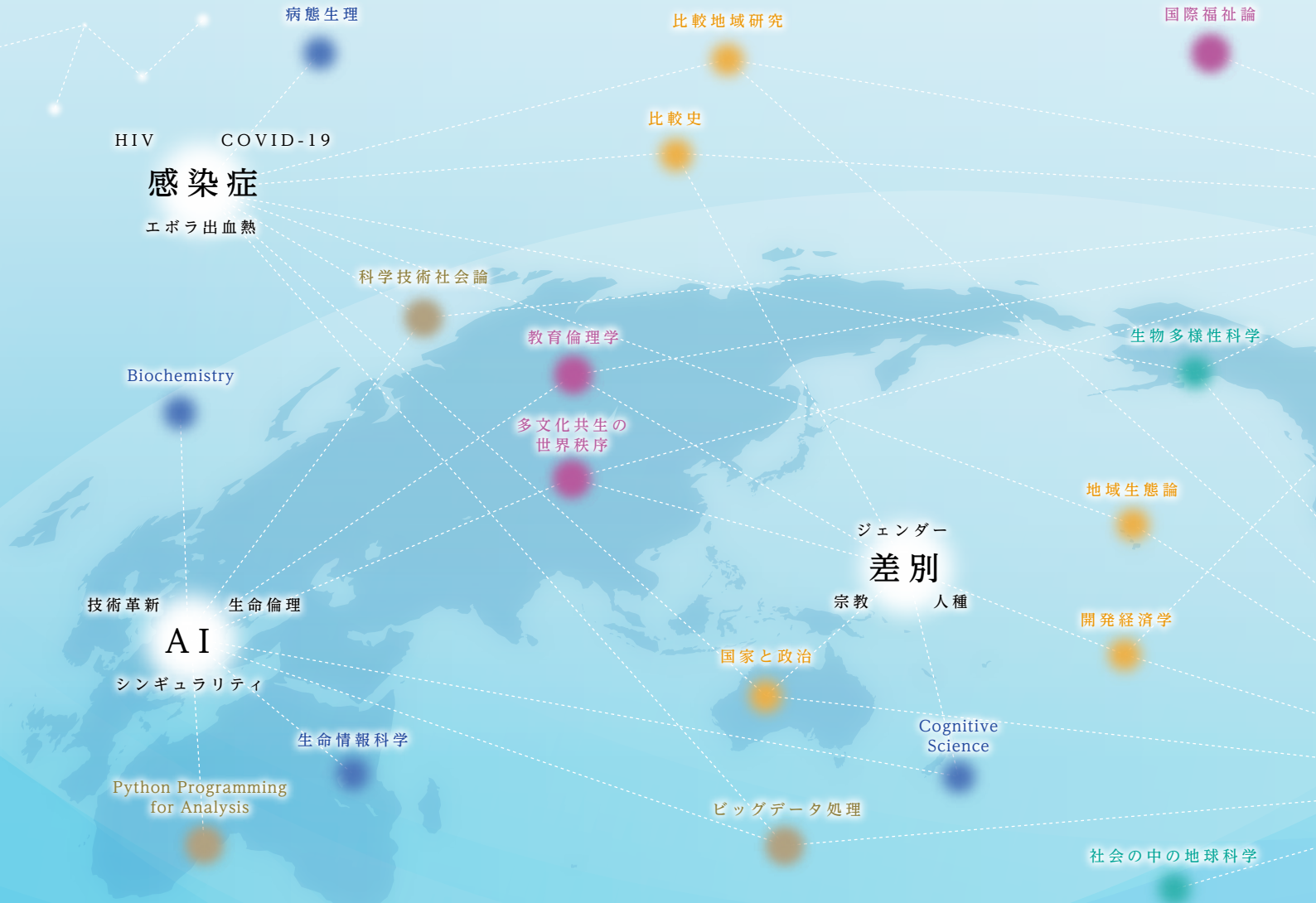
2023-2024

九州大学 共創学部

知のリンクをたどれ

世界規模での感染症の流行や経済格差・貧困、失われつつある自然環境とエネルギー資源の奪い合い、
グローバリズムと宗教・民族の対立。
いま私たちが直面している問題の多くは、さまざまな要因が複雑に絡み合って生じたもので
一つの専門分野の視点だけで解決するのは困難です。

学問分野の枠を超えて知のリンクをたどり、いくつもの視点・視野・視座から問題の解決方法を探る。
そんな学び方、アクションの起こし方を経験しておくことが
いまある、あるいは未来に起こりうる課題へのアプローチには不可欠です。
多様性を柔軟に受け入れ、活かすスタンスや幅広い知識と高度なコミュニケーション能力を養うために
「九州大学共創学部」は誕生しました。





message

学部長
鏑木 政彦教授　KABURAGI Masahiko

学位：博士（法学）
専門分野：政治思想史

共創学部は2018年4月に設置された新しい学部です。学部名からはどんなことを学ぶ学部なのか、なかなかイメージができないことと思います。

共創学部が目指しているのは、学生一人ひとりが自分の問題意識に基づいて、文理の壁を超えて領域の異なる複数の学問分野を学び、課題を設定してその解決に自ら取り組む、新しい大学教育の実現です。このような主体的な学びを通じて、絶え間なく変化する世界の課題に持続的に取り組むことのできる、強くしなやかな知性をもった人物を育てること、それが共創学部の目標です。

日本の大学の多くは学問領域ごとの学部に分かれ、さらに学部の中でも学科やコースが分かれ、同じ学科やコースの中でも隣の研究室で行われている研究内容はよくわからず、しばしば「蛸壺」と揶揄されています。学問の各々の専門領域は極め難いほどに広く深く、世界的な競争が激しいため、このように領域を定めて研究を進めることには十分な理由があります。たしかに「蛸壺」の中に宝は隠されているのです。

しかしながら、いま私たちが生きている現代は、人類が生み出した高度なテクノロジーや新しい社会システムによって、これまで隔てられていた領域が緊密に結び付けられたり、人間にしかできないと考えられていた仕事がマシーンによって置き換えられたり、新たな変化が起きている時代です。



このような時代に求められるのは、従来の専門領域に固執することなく、独自の問題意識に従ってそれをとびこえ、複数の領域が絡みあう新しいフィールドで、新たな知見や価値を発見していくことです。

共創学部は、このような新しいフィールドの課題を解決するために、複数の専門領域を結びつけて課題解決の知へとつなげる協働知創造、すなわち「共創」に習熟した人材の育成を目指しています。

そのために文理にまたがる多様な専門を有する52名の専任教員と31名の科目担当教員（2023年7月現在）を配置し、九州大学の教育リソースを活用しながら、多様な学問を結びつけて課題解決に取り組むことのできる教育環境を整えています。

共創学部は、個々の学生が既存の学部の枠を超えて自らのプロジェクトを遂行する新しい学部です。皆さんもぜひ参加してみませんか。教職員一同、皆さんの挑戦を心よりお待ちしています。



九州大学について

九州大学の起源は、1903年に設置された京都帝国大学福岡医科大学に遡ります。総合大学としての起源は、1911年1月に九州帝国大学が創立、同時に工科大学が設置され、同年4月医科と工科が合併し、堅実な歩みが始まりました。現在では、学生約19,000人(留学生約2,300人を含む)、教職員約8,000人が在籍し、2018年4月にスタートした共創学部を加えた12学部、19学府(大学院、教育組織)、16研究院(大学院、研究組織)、4専門職大学院、高等研究院、基幹教育院、5研究所、国内最大級の大学病院や附属図書館等を擁する我が国を代表する基幹総合大学として発展しています。

本学の概要

1903　京都帝国大学 福岡医科大学
1911　九州帝国大学
1949　(新制)九州大学
2003　九州芸術工科大学と統合
2004　国立大学法人九州大学
2018　**共創学部 開設**

学部

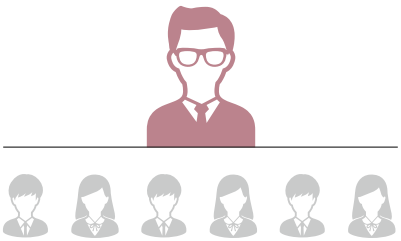
共創学部	文学部	教育学部	法学部	経済学部
理学部	医学部	歯学部	薬学部	工学部
芸術工学部	農学部			

大学院

人文科学府	地球社会統合科学府	人間環境学府	法学府	法務学府
経済学府	理学府	数理学府	システム生命科学府	医学系学府
歯学府	薬学府	工学府	芸術工学府	システム情報科学府
総合理工学府	生物資源環境科学府	統合新領域学府	マス・フォア・イノベーション連携学府	

データでみる共創学部

学生5〜6人に
チューター教員 1 名



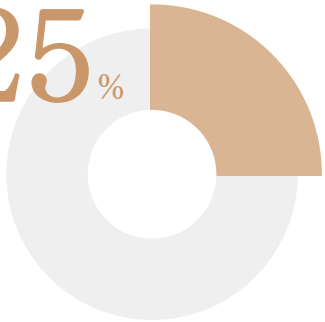


男女比 男 45 : 女 55

高校時代の文理比 文系 56 : 理系 44



外国人教員
約25%



文理の枠を超えて
23部局
から
多様な教員が
集結

- 基幹教育院
- 人文科学研究院
- 比較社会文化研究院
- 人間環境学研究院
- 法学研究院
- 経済学研究院
- 言語文化研究院
- 理学研究院
- 医学研究院
- 薬学研究院
- 工学研究院
- 芸術工学研究院
- システム情報科学研究院
- 総合理工学研究院
- 農学研究院
- 応用力学研究所
- マス・フォア・インダストリ研究所
- 熱帯農学研究センター
- 科学技術イノベーション政策教育研究センター
- 韓国研究センター
- 留学生センター
- 学術研究・産学官連携本部
- エネルギー研究教育機構

主な進路・就職先

民間

AlphaSights
Asobica
BEMAC
GSユアサ
INCLUSIVE
JR九州エージェンシー
KBC九州朝日放送
LINE
Mobility Technologies
NTTデータ九州
NTTドコモ
PR TIMES
TIS
UCC上島珈琲
Works Human Intelligence
アイオ
アイリスオーヤマ
アイレップ
アクセンチュア
アビームコンサルティング
アマゾンジャパン
イオン九州
イグニション・ポイント
ウィル
エムティーアイ
オービック
オリエンタルモーター
カクシン
カチタス
キントー
グッドルーム
クリークアンドリバー
コムテック
ジーユー
ジェイウェイブ
シナネンホールディングス
スガツネ工業
セプテーニホールディングス
ニトリ
ニトリホールディングス
パーソルプロセス&テクノロジー
パナソニックコネクト
パナソニックハウジングソリューションズ
ブリーチ
ブルームバーグ
フルタイムシステム
ベストコ
ベネッセコーポレーション
マクロジ
マッキャンエリクソン
ムーディーズ
モンベル
リンクアンドモチベーション
ゆめみ
応研
九州電力
久原本家グループ
新学社
新出光
進研アド
十八親和銀行
住友生命保険相互会社
大成建設
大和ライフネクスト
第一生命保険
中部電力
西日本電信電話
日本IBM
日本航空
日本生命保険相互会社
野村総合研究所
博報堂プロダクツ
富士通
富士通Japan
福岡銀行
福岡中央銀行
星野リゾート
三井住友ファイナンス&リース
三井住友海上火災保険
三井住友銀行
三菱地所
宮崎銀行
明治安田生命保険相互会社
読売新聞東京本社
楽天グループ
楽天銀行
楽天証券
良品計画
福岡商工会議所

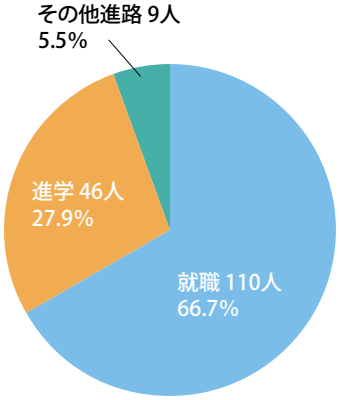
官公庁等

経済産業省
佐賀地方法務局
山口県
宮崎県
海上自衛隊
国立研究開発法人科学技術振興機構
国立大学法人九州大学
独立行政法人労働者健康安全機構

進学等

九州大学大学院
- 人文科学府
- 地球社会統合科学府
- 人間環境学府
- 経済学府
- 生物資源環境科学府
- システム情報科学府
- 統合新領域学府
- 芸術工学府
- 総合理工学府

北海道大学大学院
東京大学大学院
東京工業大学大学院
京都大学大学院
渕上医療福祉専門学校



共創学部の教育

九州大学が全ての学生に求める「能動的学習能力」を礎にして、「共創」のために必要な態度・能力となる「創造的構想力」、「国際コミュニケーション力」、「課題検討力」、「協働実践力」を養成します。これらの態度・能力の修得を通して「共創的課題解決力」の獲得を目指します。

常に課題を意識しながら能動的に学ぶことで、これからの社会で活躍するために必要な態度・指向性・知識・技能をもつ人間へと成長していくことができます。

創造的構想力

ありうべき未来を想像し、新しい社会的価値やイノベーション創出を通じてそこに至る道筋を構想できる。

能動的学習能力

課題の検討と解決に必要となる知識や能力を主体的に探究することができる。

国際コミュニケーション力

背景の異なる様々な人々と、言語や専門の垣根を超えて協力し、理解し合うことができる。

課題検討力

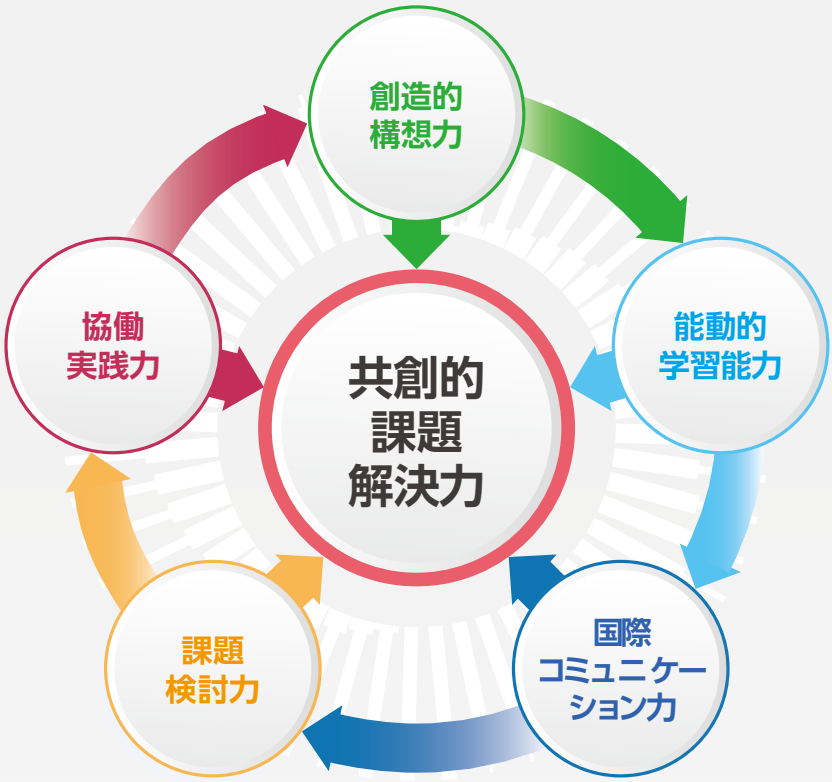
既存の学知を活用し、課題の根源的原因やその解決方法を検討することができる。

協働実践力

背景の異なる様々な人々との議論や協働を通じて、実現可能な課題の解決方策を立案することができる。

共創的課題解決力

「国際コミュニケーション力」、「能動的学習能力」、「課題検討力」、「創造的構想力」、「協働実践力」の5つの力を総合して、課題の解決に取り組むことができる。



育成する人材像

For Global Life

「国際的・地球的課題に対する解決策をコーディネートして、世界に効果的に情報発信できる実務家」

For Changing Society

「国際社会の課題を解決するために、新しい社会の仕組みや価値の創出をデザインする専門家」

For Future Science

「文理を超えた学際的知見を修得し、国内外大学院に進学する、諸科学の境界・学際的領域の研究者」

学位

学術
(Bachelor of Arts and Sciences)

教育のポイント

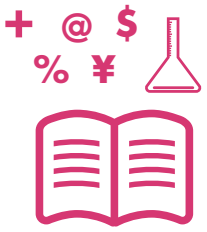
1 徹底した語学教育

習熟レベル・能力別のクラスによる授業により、高い英語運用能力を身につけるほか、現代の課題を認識し、常に最新の情報をグローバルな視野で入手する姿勢を養います。また、学術英語の語彙や表現、自らの意見を述べる力など、外国語による合意形成プロセスも学びます。留学生に対して行う日本語教育もレベル別・技能別のクラスで行います。



2 課題解決型のカリキュラム

複数の学問分野の知識や技能を組み合わせて問題の解決方法を考えていくため、人文科学、社会科学、自然科学という既存の学問分野を横断・融合する内容のさまざまな授業を用意し、学生自身が設定した課題の解決に必要な複数の専門分野の高度な知識や技能、考え方を修得します。



3 実践的な協働学習

チーム型学習(Team-Based Learning)による「共創基礎プロジェクト」、「共創プロジェクト」を必修化することで、他者と協働して課題の解決を行う際の手法や技法、知識の活かし方、他者との意識の組み合わせ方や合意形成など、実際のプロセスを通して身につけます。



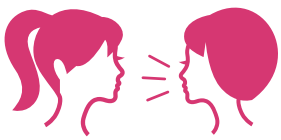
4 海外大学への留学等

海外大学への留学等を義務付け、すべての学生が異なる文化の中で学び、活動する経験を積むことで、国際理解や知識の拡大、言語能力とコミュニケーション能力の向上を図ります。



5 留学生とのクラス・シェア

日本人学生と外国人留学生が共に学ぶ授業スタイルを積極的に取り入れることで、日常的に日本人学生と外国人留学生の交流が行われる環境をつくります。互いに助け合い、コミュニケーションを取りやすい環境の中で、双方が国際的な感覚を養うことができます。



6 レクチャーシリーズ

国内外から研究者だけではなく、現場の実務に携わってきた実務家や行政官、クリエイターなどを講師として招き、その経験をお話しいただくことで、学生の視野を広げることを目的としています。各分野の第一線で活躍している方々より、現在、この世界で実際のところ何が起きているのか、それに人々がどのように対処しようとしているのかを、学問的ないし実践的な視点から解説していただきます。



カリキュラム

1年次 **2年次**

視野を広げ、課題に取り組む土台をつくる：課題の分析・検討に必要となる様々な学知と技能を学び、協働や経験を通じてもの

高年次基幹教育科目

協働科目　知識や技能、考え方、背景の異なる様々な人々と協働して、課題を検討、
・共創基礎プロジェクト　・共創プロジェクト

共創基礎演習　アプローチ科目で学んだ学知や技能を、少人数での

アプローチ科目　我々が直面している課題を考えるうえで必要不可欠な学問的身に付けます。

人文・社会分野（系）

・思想・倫理・哲学A「文化的記憶入門」
・思想・倫理・哲学B「文化的記憶探究」
・思想・倫理・哲学C「社会哲学論」
・文学A「東アジアの文学と文化」
・文学B「多文化社会のための比較文学比較文化入門」
・言語・コミュニケーション論A「言語研究概論」
・言語・コミュニケーション論B「コミュニケーションの語用論」
・歴史学A「近代歴史基礎論」
・考古学A「公共考古学基礎論」
・考古学B「社会集団論」
・考古学C「先史社会研究の理論と方法」
・人類学A「人類学的インタビュー方法」
・人類学B「イスラム世界の多様性」
・政治学A「政治学基礎論」
・政治学B「規範的政治理論」
・国際関係論A「国際政治」
・国際関係論B「中国外交論」
・経済学A「経済分析入門」
・経済学B「インド・南アジアの経済発展と開発」
・経済学C「環境経済・政策学」
・経済学D「Critical thinking through behavioral economics」
・地域研究A「中東政治」
・地域研究B「文化人類学的フィールドワーク論」

自然科学分野（系）

・思想・倫理・哲学A「生命倫理科
・地域研究A「地球環境実習」
・数学A「統計入門」
・工学A「自然災害とレジリエンシ
・工学B「自然災害とレジリエンシ
・生物学A「昆虫学基礎論」
・生物学B「進化生物学」
・生物学C「分子生物学」
・生物学D「遺伝子実験と解析技
・生物学E「遺伝学と進化」
・生物学F「遺伝子とバイオダイバ
・生物学G「分子生物学と細胞生
・生物学H「生化学、内分泌学およ
・物理学A「解析力学入門」
・物理学B「自然科学の基礎」
・地球科学A「地球の環境形成」
・地球科学B「フィールドワーク基
・地球科学C「地球物質の科学1」
・情報学A「脳と情報」

学際分野（系）

・思想・倫理・哲学A「科学哲学」
・思想・倫理・哲学B「科学思想史」
・言語・コミュニケーション論A「学際研究入門」
・言語・コミュニケーション論B「ファシリテーション入門」
・考古学A「考古学研究方法論1」
・考古学B「考古学研究方法論2」
・地理学A「東アジアの経済地理学」
・地理学B「自然環境地理学」
・地理学C「人文環境地理学」
・地理学D「環境地理学演習」
・地域研究A「地域研究基礎論」
・数学A「分類のための数理」
・数学B「回帰のための数理」
・工学A「Energy Resources Engi
・情報学A「データアナリティクス1」
・情報学B「データアナリティクス2」
・情報学C「ビッグデータ処理」
・情報学D「質的研究法」
・情報学E「Python Programing in
・情報学F「Python Programing for
・情報学G「実データ解析技法」
・科学技術論A「科学技術社会論」
・デザイン学A「福祉とコミュニケーシ
・デザイン学B「デザインとイノベーシ
・生態学A「生物多様性基礎論」

基幹教育

九州大学で学ぶ、全ての学部学生が履修します。「ものの見方・考え方・学び方」を学習し、深い専門性や豊かな教養へとつながる知識、技能の基礎を身に付けます。

・基幹教育セミナー
・課題協学科目
・言語文化科目
・文系ディシプリン科目
・理系ディシプリン科目
・サイバーセキュリティ科目
・健康・スポーツ科目
・総合科目

共創基礎科目

共創学部での学修の土台となるものの考え方や見方、研究手法、技能などを学びます。

・学術研究基礎
・課題とイノベーション
・共創のための数学
・システム科学基礎
・データの収集・分析
・世界の様々な哲学
・世界を理解するための歴史的視座

基幹教育科目：英語インテンシブコース

英語の「読む・書く・聞く・話す」の4技能を徹底的に向上させ、英語が「使える」能力を身に付けます。

・インテンシブ英語　・学術英語

経験科目　留学やインターンシップを通じて、自分が生まれ育った街や国、地域を超えて、世界中の様々な人々と交流し、自分とは異なる考え方や見方を学び、
・異文化対応1　・異文化対応2　・海外活動A　・海外活動B　・グローバル・オンラインA　・グローバル・オンラインB

レクチャーシリーズ　実際の課題解決の現場ではどのような取り組みがおこなわれ、どのような困難に直面し、いかにしてその困難を克服しようとしている

必要に応じて他学部などの科目を履修

（2023年7月現在）

3年次　4年次

の考え方や視野を広げる

課題に取り組む上で必要となる能力を磨く：実際に課題の分析・検討をおこなうことを通じて、将来的な課題の解決に必要となる学知や技能、視点、態度を修得する

将来的な解決への道筋を考える思考法や態度、スキルを身に付けます。

演習形式で深めることを目的とします。

共創発展演習

主指導教員から、ディグリープロジェクトの遂行に必要となる方法論や技能、モノの見方などを、定期的に指導を受けることを通じて修得します。

方法論や技能を

学」

ー1」
ー2」

術」

ーシティ」
物学」
び栄養学」

礎実習」

neering」

English」
Analysis」

ョンデザイン」
ョン」

課題科目

アプローチ科目で学んだ学問的方法論や知識、技能などを活用して、実際の課題を考え、その将来的な解決に至る道筋を探ることを学びます。

人間・生命領域

- システム神経科学
- 栄養生理学
- バイオエンジニアリング：社会との関連性
- 健康の科学
- Basic Pharmaceutical Science
- Advanced Pharmaceutical Science
- 遺伝学と発生生物学

国家と地域領域

- 政策評価論
- ロシア経済論
- 比較史
- 越境史
- 国家と政治
- 東アジアのジェンダー史
- 現代中国論
- 計量中東政治
- 日本経済史
- 地域生態論1
- 地域生態論2
- 物質文化研究3

地球・環境領域

- 生物多様性科学
- 自然環境地理学応用演習
- 保全遺伝学
- 地球について考える
- 社会の中の地球科学
- 人文環境地理学応用演習1
- 人文環境地理学応用演習2
- 昆虫学演習
- 環境都市政策
- Best Energy Mix
- 環境保全・再生
- 流域環境学
- 大気海洋科学
- 環境・エネルギー学
- 地球の変動
- 地球物質の科学2
- 地球科学実習

人と社会領域

- 多文化共生と LOHAS
- 国際福祉論
- 臨床教育学
- 観光と文化
- 国際関係理論
- グローバル・ガバナンス
- 言語データ分析
- コミュニケーションと認知
- Globalized English
- 物質文化研究1
- 物質文化研究2

領域横断

- コミュニティ・社会開発
- 共創プログラミング
- 地域史
- 比較地域研究
- 哲学から課題に取り組む
- 規範的政治理論演習
- 宗教研究
- 地盤防災とサステナビリティー
- デザイン思考による課題解決
- 脳科学と社会問題
- デザイン思考プロセス演習
- デザイン思考エンジニアリング演習
- デザイン思考コミュニケーション演習
- 環境ガバナンス
- 現代自然科学

ディグリープロジェクト

(卒業研究)

学生一人一人が将来的な解決を目指す課題を選定し、そのために必要となる方法論や技能を駆使して、課題の根源的な原因の探求や、将来の解決に不可欠な手法やモノの見方などの模索に取り組みます。

- ディグリープロジェクト1
- ディグリープロジェクト2
- ディグリープロジェクト3

違いを超えて協力する姿勢を身に付けます。

のかなどを学ぶことを目的に、産官学、様々な分野から講師を招き、講演やワークショップ形式で開講します。

共創学部の英語教育

共創学部には英語を学ぶ「シカケ」がたくさん用意されています。
確かな語学力を身につけ、世界へ羽ばたくためのプログラムがここにはあります。

シカケ 1

英語を集中的に学ぶ英語インテンシブコース

1年次では3つの科目からなる英語インテンシブコースで時事英語・学術英語を集中的に学びます。また、九州大学のSALC (Self-Access Learning Center)では留学生との英会話セッションや英語での勉強会などが開催されており、授業外でも、英語を使う機会が確保されています。

シカケ 2

全員必須の留学

共創学部では留学生を除く全員に留学が義務付けられ、1ヶ月程度の短期留学から1年間の交換留学まで様々なプログラムが用意されています。自分に合ったプログラムを見つけて、世界へ飛び出しましょう。

3つのテーマについて学ぶ

Global Issues

世界の時事問題について学びます。英語のニュースやエッセイなどを読んで要約や自分の考えを述べる訓練をし、同時に世界の課題を認識・発見する力を養います。

Japanese Issues

日本の時事問題について、留学生とともに英語で学び、日本を客観的に観察し、議論する力を身につけます。また、ディスカッションやディベートなどを通して、意見を共有し、高め合うプロセスを学びます。

Academic Issues

学術英語の基礎を学び、論理的な文章の作成方法、論文の書き方、効果的な発表の方法などを身につけます。また、学術的な発表や英文を理解する力を涵養します。

シカケ 3

英語で学ぶ専門科目

共創学部では様々な分野の授業が英語を用いて行われます。英語で専門科目を学ぶことで留学への準備となり、留学後には身につけた力を存分に発揮する場となります。

英語開講科目例

- Global Social Welfare
- Comparative History
- Comparative Area Studies
- Fundamentals of Modern History
- Introduction to Cultural Memory Studies
- Energy Resources Engineering
- Bioethics
- Molecular Biology
- Critical thinking through behavioral economics
- Basic Pharmaceutical Science

シカケ 4

英語で研究の成果を発表

英語で行う卒業研究発表会で自分の成果をきちんと伝えられるよう、英語そのものだけではなく英語の発表技法や論理展開などもしっかり学びます。また、英語での研究発表は国際的な学術会議等での発表の準備にもなります。

ディグリープロジェクト（卒業研究）

学生自らが課題を設定し、これまでに学んだ知を組み合わせて、課題解決のための新しい知や価値の創出に取り組みます。課題の解決策を異なる2つの学問分野からアプローチし、課題の解決方法等を卒業論文等にまとめ、英語で発表します。

留学情報

グローバル社会において多様な分野で活躍する人材を育成するため、共創学部では海外大学への留学等を義務付けています（語学研修のみの留学は認められません）。全ての学生が異なる文化の中で学び活動する経験を積むことで、広く異なる歴史的・文化的背景や価値観の存在を認識し、国際理解・知識の拡大に加え、コミュニケーション力と行動力の向上を図ります。

なお、外国人留学生は、本学で学ぶことですでに留学を経験していることなどから、原則として日本国内でのインターンシップ等を行います。

交換留学

海外の大学機関と締結した学生交流協定等に基づき、交換留学生として1年以内の期間で留学を行い、各々が設定した課題に関連する専門分野の授業等を履修し、単位の取得を目的とする学修活動。

○実施可能年次：2年次～4年次
○実施期間：1学期（受入大学の学期）から1年間

海外インターンシップ
海外ボランティア
海外フィールド調査等

海外でのインターンシップやボランティア活動への参加、海外の大学機関における各々が設定した課題に関連する専門分野の技術修練・習得、海外でのフィールド調査などを目的とする活動。

○実施可能年次：1年次～4年次
○実施期間：8日以上（移動日を除く）1年未満、かつ、30時間以上（演習科目の授業分）の学習時間

短期留学・研修

一定の語学力の保持などを条件に学内募集・選考を行う短期留学・研修プログラム、または参加を許可する海外の教育機関等が実施する短期研修プログラムへの参加を通じ、各々が設定した課題に関連する専門分野の知識・技能の修得や、異なる歴史的・文化的背景や価値観の存在の認識と、国際理解・知識の拡大を目的とする学修活動。

○実施可能年次：1年次～4年次
○実施期間：概ね1ヶ月以内（プログラムによる）

海外留学等用の経済支援

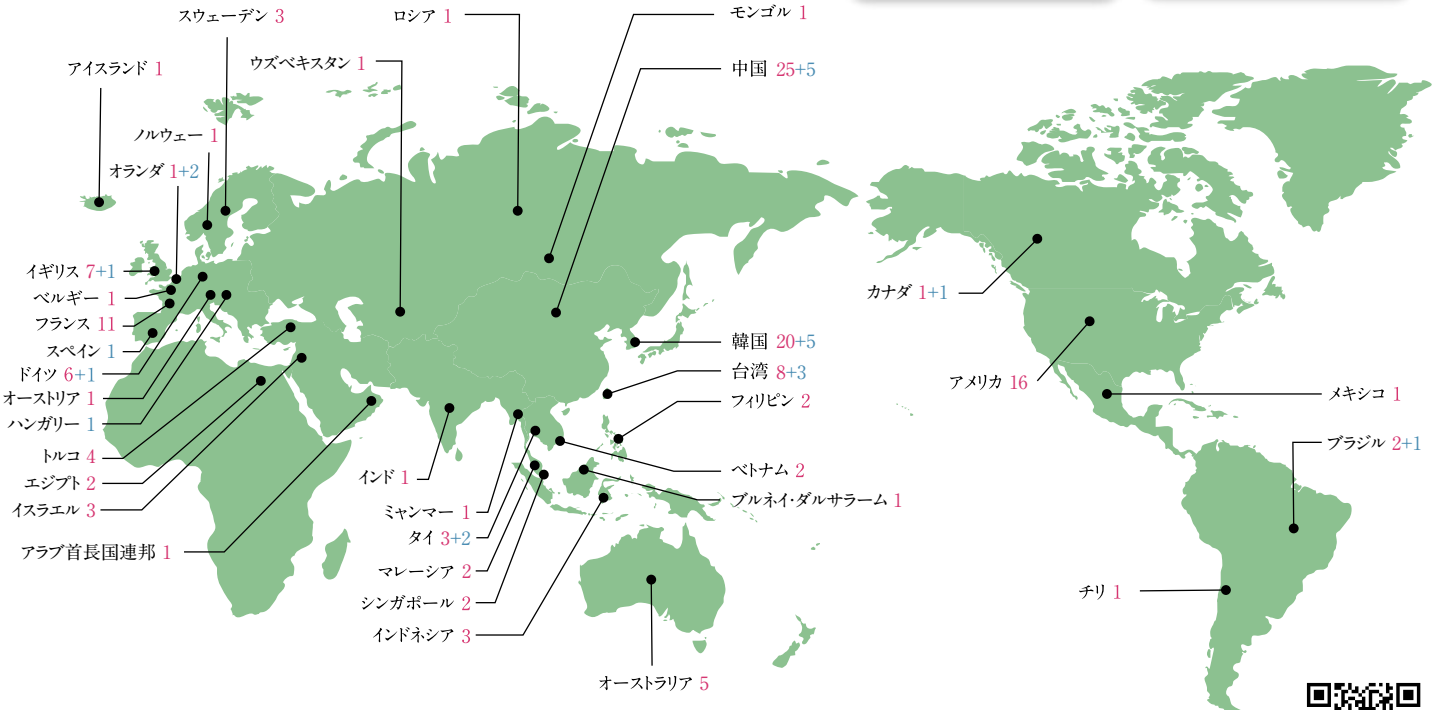
共創学部では、共創学部生対象の「海外留学等に係る経済支援」制度を設けています。
単位認定に必要な留学等を行う際、在学期間中に一回を限度として、留学等に係る費用の一部を補助する目的で留学準備金及び奨学金が給付されます。

○留学準備金：一律15万円（渡航費用やビザ取得費用、危機管理及び保険のための費用などを補助）
○奨学金：毎月2.5万又は4万円（奨学金の金額は、留学先の地域、都市等により異なります）　※他の奨学金と併給可能です。

大学間・部局間交換留学による留学先大学数

大学間協定　34ヵ国・地域　141大学　（2023年5月現在）

共創学部部局間協定　11国・地域　23大学　（2023年5月現在）更新予定含む



※九州大学の詳しい留学情報は以下URLをご覧ください。
https://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/study

留学体験記







大好きなリーズでの学び、出会い、そして変化

イギリス・リーズ大学

共創学部4年　河野 結愛(KAWANO Yume)

私は、2022年9月から2023年6月の10ヶ月間、イギリスのリーズ大学に留学していました。入学当初から留学を望んでいたので、コロナが徐々に落ち着いた3年次の9月から留学に行けると聞いた時には、自分の中の大きな夢が一つ叶った気分でした。九州生まれ九州育ちの私にとってイギリスでの生活は全てが新鮮で、初めは文字通り右往左往しながらも、現地での友達もでき、生活に慣れてからの毎日は、何物にも変えがたい楽しく有意義な日々でした。私のDP研究テーマは畜産なのですが、授業を通してイギリスの畜産についても学ぶことができ、特に動物福祉についての興味が生まれました。日本にいるときは考えたことのない点だったので、授業で当たり前のように扱われていたことに衝撃を受けたことも覚えています。他にも、薬理学や脳科学、心理学など、共創学部の専門科目にはない授業を取ったため、英語力の向上はもちろん、新たな分野への見識も深まりました。

また、日本にいたときよりも多様性に寛容になったのも大きな変化です。人種や民族が豊かであるのはもちろん、ビーガンやベジタリアン、LGBTQがかなり浸透していて、初めは日本との違いに驚くばかりでしたが、徐々にその文化や価値観を好きになり、その寛容性が自分自身にも染み付きました。さらに、現地で出会った友人もかけがえのない存在となりました。同時期に留学していた日本人、個性豊かな現地の学生、寮のフラットメイトなど、留学していなかったら決して出会えなかったであろう友人と出会うことができました。帰国後も日本で再会したり、もしくは彼らに会うためにまたイギリスに行きたいと思える存在となり、彼らのおかげで留学生活が豊かなものとなりました。

留学を通じて私が感じたことは、正直ここでは書き尽くせませんが、一番は「とにかくやってみる」意識がより強くなったように感じます。上で述べた学びや変化は、すべて主体的に自ら行動を起こしたからこそ得られたものだと思っています。自分を見つめ直し、新たな価値観や考え方が身についたこの留学経験は、今後の私の人生において大きなキーポイントになると確信しています。







共創生、-20度の国で差別と偏見を探究する

スウェーデン・ストックホルム大学

共創学部4年　出石 琴美(IDEISHI Kotomi)

出石琴美と申します。ジェンダー差別の解決に貢献するという夢を持ち、共創学部で社会心理学とジェンダー学を学んでいます。私はスウェーデンのストックホルム大学で10ヶ月間の留学を経験しました。本稿では、留学先での学び、授業形式、共創学部による留学支援についてお伝えします。

ストックホルム大学では、ジェンダー学、社会学、地理学、教育学、比較史のクラスを履修し、差別や偏見について深く学びました。スウェーデンは1990年代から移民や難民の受け入れが進み、男女平等ランキングでも毎年上位に位置するなど、平等主義の国として知られています。しかし近年、反移民や反フェミニズムの風潮が高まり、2022年の総選挙では性差別的かつ人種差別的な極右政党が20％の支持を得るなど、社会に大きな変化が起こっています。この潮流による新たな差別の実態やメカニズムを理解するために、学際的に授業を受講して学び、先行研究を調査してデータを収集し比較、最終的には自身のディグリープロジェクトとして論文を書き上げました。



授業は、毎週指定された20の論文を事前に読み込み、講義を受け、得た知見をもとに議論やグループワークを行うスタイルでした。スウェーデンでは、生涯学習社会の実現を目指しており、26歳以上の学生が全体の75％以上を占めます。仕事を休職して授業を受けるケースや定年退職後に大学に入学するケースもよく見られます。学生との能動的な議論を通じて、既存の枠組みにとらわれない知識と考え方を身につけました。また、留学生や移民、難民の割合も多く、多様なバックグラウンドを持つ学生たちと交流し、広い視野で学問に向き合う知的体力を磨きました。

留学を通して多様な背景や異文化への共感を持ち意見を交わすことで、自己認識と向き合ってこれまでの常識を疑い、学問的かつ批判的な新しい視点を養う契機を得ました。全員が留学を経験する共創学部だからこそ享受できた精神的なサポートや給付奨学金による金銭的な支援、また必須授業を通して得た批判的思考力と実践的な英語力により、留学先でも障壁を乗り越えて最大限の学びを持ち帰ることができました。この学びをジェンダー差別の解決に向けた基盤と原動力にして進んでゆきます。

教員インタビュー

「共創」するのは学生だけではない

鬼丸 武士 教授　　LAUWEREYNS Johan 教授

Q What do you like about ISI?

A I like the interactive nature of our school. This allows me to think much more concretely and practically about how to generate good solutions for society through studying decision science.

Q What do you think about ISI and how would you describe it?

A I see “interdisciplinary” as a form of innovation across disciplines – making new tools, new systems, and new values by combining different perspectives from the sciences and humanities. For instance, in my own research, by focusing on the mechanisms of brain and mind, we can try to improve decision making in many different aspects of society.

Q 先生にとっての「共創」とは?

A 物事を様々な角度から考えることです。関連する分野を学ぶこと、読書などを通じて知識、視野を広げておくこと、共に仕事をすることなどが重要だと思います。その上で、これまでとは違うアイディアやアプローチを思いついたり、ストーリーが描けるようになったりすることが「共創」ではないかと考えます。

Q 学生がこの学部だからできることは?

A 既存の学部と比べて、取り組みたい課題や方法などを選択する自由度が高いことと、試行錯誤が許されていることでしょうか。

Q For whom would you recommend ISI?

A Our school is ideal for students who have wide-ranging interests, an open mind, and a willingness to try new things. It is also the best place for students who have a unique vision that goes beyond the usual boundaries of academic disciplines.

Q 共創学部はどのような人におすすめですか?

A 他人に何かしてもらうのを待つのではなく、他人と同じことをするのが嫌で、自分から主体的に物事に取り組もうとする学生さんにお勧めです。

Q 共創学部を目指す学生にメッセージを!

A この学部は自由度が高い一方で、自分がしっかりしていないとどうにもならなくなる危険性をはらんでいる学部でもあります。大学入試がゴールではなく、共創学部に合格してからがスタートだという意識で、学部生活を自分の人生の重要なステップとして過ごしていく、頭を使うことに疲れ果てて寝るという毎日を繰り返すことをいとわない人にぜひ、来てほしいです。

Q What can the students do after they graduate?

A Roughly speaking, I see three routes for our students after graduating.

1) Become a researcher in an innovative, interdisciplinary research field.
2) Become an innovative policymaker in business or government, either local or global.
3) Start your own venture or independent enterprise as a social innovator.

学生インタビュー Student Interview



共創学部3年　**井上 己新**さん

大阪明星学園明星高校卒　2021年4月入学

Q1 なぜ共創学部を選びましたか?

『「虫」と「人間」について、幅広い学問からアプローチできることを知ったから』です。私は「虫好き」です。大学では「虫だけの研究」に加えて、「虫と人間の関係性」について考察を深めたいと考えていました。例えば「虫が人間社会にもたらす影響はどのようなものか」といったテーマに関心がありました。

大学には「昆虫学」という学問があり、日本では農学部などの理系学部で発達しています。最初は九州大学の農学部を目指していました。まずはそこで昆虫の知識を身につけてから、大学院もしくはその先で「人間側」の研究を進めていこうと考えていました。

しかし、高校3年生の春、私は「共創学部」と出会います。ホームページには「文理の壁を乗り越えて自分の課題に取り組めること」・「昆虫学の専門の先生が二人いらっしゃること」・「心理学・社会学などの人間を対象とする分野を専門とする先生方が豊富にいらっしゃること」などが記載されてました。共創学部は「昆虫」と「人間」の両方について学べる、私にとって最高の環境でした。

Q2 共創学部に入ってよかったことは?

「挑戦を気兼ねなくできること」と「自分の専門分野以外の学問を学べること」です。

まずは「挑戦」についてです。私は入学してから学生劇団「いと」～Italento～という団体を立ち上げて、「ミュージカルで社会問題を伝える活動」に取り組んできました。0からの立ち上げだったため、最初は仲間もお金も存在しません。しかし、「共創学部だからこそ」この挑戦に取り組むことが出来ました。友人も先生も、私たちの挑戦を後押ししてくださり、活動に参加してくれました。また、共創学部にはKAPPAという独自の支援金制度があります。学生のアイデアに基づく活動に対して資金援助をいただけるとともに、メンターとして教員の皆さんにアドバイスをいただけます。このような一丸となった「挑戦を後押しする」制度は本当に貴重です。

次に「幅広い学問分野」についてです。共創学部では様々な分野の授業が展開されます。それらの授業を通して、自分の専門分野「だけ」を勉強していては身につけることが出来ない、圧倒的に広い視野を身につけることが出来ます。そしてそれは、社会問題の解決に不可欠です。共創学部では様々な学問分野が、自分の頭の中で「つながり」を形成していきます。専門分野とは全く関係のないことを勉強していたはずなのに、いつの間にか興味関心のある事柄に知識が還元されていきます。このような学問におけるメタ的視点は、他の学部ではなかなか得られないのではないでしょうか?

Q3 今後の取り組みたい課題・夢は?

将来は「人間と虫の新たな関係性をデザインする」昆虫学者になりたいと考えています。現在日本では、多くの人が(もちろん全員ではありませんが)虫に対してネガティブな印象を抱いています。私の問題意識は『「虫に対するネガティブな感情」を持ちながらも、虫の利用が進められること』に根差します。

近年昆虫食の普及が叫ばれています。昆虫を利用することへの関心が、「食文化」を通して広まっています。それだけではありません。工学・農学・医学などの分野においても昆虫の利用は進められています。例えば九州大学はカイコを利用し、新型コロナウイルスワクチンの開発に取り組みました。昆虫は様々な分野で人間の役に立ちます。しかし人間は時に「資源が有限であること」を忘れてしまいます。昆虫が「有用な資源」であることが認識される半面で、際限のない搾取が始まろうとしています。

昆虫は現在発見されている種のうち60%以上を占めています。しかしその豊かな多様性が人間の開発によって危機に瀕しています。昆虫を嫌うことは仕方のないことです。一方で昆虫の「命」に対する尊敬を持てない限り、これ以上の昆虫利用を進めていくことは危険です。私はこのような問題意識のもと、人間によるさらなる環境破壊を事前に予防し、虫と人間が相利的に共存できる世界を目指していきたいと考えています。

Q1 なぜ共創学部を選びましたか?

「やりたいことを探しにおいで。大学は、社会は、君が今見えているよりも、もっとずっと広いんだよ。」

これは、進路に悩んでいた時に、参加した進学イベントで共創学部の先生から頂いたアドバイスです。私はこの言葉をきっかけに共創学部を目指し始めました。

私は高校生のとき、文系・理系、志望大学、就きたい職業、すべて決めなければいけない気がして焦っていて、「やりたいこと」がはっきり決まっていない自分に嫌気がさしていました。しかし、今見えている世界が全てではない、大学でさらに勉強を重ねて「やりたいこと」を考えてもいい、そうアドバイスを頂き心がとても軽くなったのを覚えています。

実際、高校までの勉強だけで実社会のこと理解し、自分がどういう風に社会に貢献したいのか決めるのは難しいことです。共創学部では、学問分野の枠に囚われないテーマの研究に触れることができます。自分の興味を多角的に探り、また様々なアプローチで追及することができるので、まだ興味が定まっていない人にもおすすめです。

Q2 共創学部に入ってよかったことは?

共創学部の先生方や、議論好きな友人とたくさん出会えたことです。おかげで、新しい知見を得るだけでなく、自分なりに吸収することができたと思っています。

このパンフレットにも教員一覧がありますが、本当に様々な分野の先生方がいらっしゃいます。授業では、どの先生方も生き生きと楽しそうに専門分野について教えてくださり、質問や相談をお願いすれば時間を割いて向き合ってくれます。

さらに、ディスカッションや発表をする授業が多いので、グループワークをきっかけに友人をたくさん作ることができました。授業時間外でも、発表準備のために集まって話し合ったり、読んだ本や調べた文献を共有したりするので、仲良くなるのはもちろん、多様な視点と意見に日頃から触れることができます。学生間での交流が、多いだけでなく高い質で行われていると感じます。また、最近はコロナ禍の落ち着きもあって、たくさんの留学生が共創学部へ来ており、留学生との交流も盛んにできる環境です。

それまで全く知らなかった学問分野に触れる機会と、得た知識をかみ砕いて先生方や友人とフィードバックし合う機会、どちらも共創学部では充実しています。

Q3 今後の取り組みたい課題・夢は?

私は現在、差別や偏見問題に興味を持っており、様々な学問分野から「偏見(差別的な主観)はどうやって形成されるのか?」を研究したいと考えています。ディグリープロジェクト(卒業研究)では、主に言語学の視点から研究テーマを練っている段階です。

人の考え方は生まれつきのものではなく、その考え方は、絶対的に正しいものでもありません。私の場合日本社会、学校教育、家族や友人とのコミュニケーションの上で形成されたものです。私はその中で、「言葉」が持つ価値観形成における役割に注目して、ディグリープロジェクトを行いたいと考えています。現在は、テレビや新聞などマスコミにおける言葉の使われ方の変化と、社会的事象を結び付けられないか模索中です。



共創学部3年　**高原 小夏**さん

昭和薬科大学附属高校卒　2021年4月入学



カサス 石井 愛育子さん

中国　United World College Changshu　2020年10月入学

Q1 Why did you choose ISI?

Possessing a multiplicity of perspectives to understand the prevalent social issues are necessary; hence, the School of Interdisciplinary Science and Innovation (ISI) allows the integration of both natural and human science classes. That is, transcending the boundaries of the specialized fields and addressing the issues multifacetedly. After completing the KIKAN education, I have acquired the foundational knowledge and skills required for problem-solving, which enabled me to discover a suitable specialized course. The student could choose from the four areas, through which I have selected “People and Society;” more importantly, however, it is not limited to taking courses within the chosen area as the School of ISI encourages the students to take cross-area courses. Furthermore, as the faculty’s name suggests, the School of ISI accentuates the “interdisciplinary” aspect; therefore, I can learn beyond the selected area and the specialized course. Accordingly, I could achieve my desire to be a social innovator who can discover solutions to social issues on a local and global scale.

Q2 What were the good things about being admitted to ISI?

Community. Since the classes are quite compact, consisting of 20-30 students, the relationship between students and professors is relatively close. Whenever there are problems in terms of academics or campus life, the professors accommodate the students in their best interests. Additionally, the ISI office also supports the students with their concerns and questions.

The professors encourage the students to share ideas through group/class discussions; thus, interactions are inevitable. Besides focusing on self-expression, the students could expand on their own perspectives with the other students since the classes are more of an investigative approach, where students first-handedly and proactively raise questions. Henceforth, the ISI students are rather creative and innovative whenever proposing solutions and, therefore, strive to achieve their DP.

Q3 What is your theme for DP and what is your dream?

With globalization advancing at an unprecedented rate, an increasing number of individuals have been situating cross-culturally, resulting in many children inhabiting cross-national lives; frequently conceptualized as “Third Culture Kid” (TCK). As a result of children spending most of their significant formative years in countries besides their parent’s origin or the children’s national background, TCKs often feel rootlessness. As a half Japanese/Filipino growing up in China, I consider myself a TCK. Identity issues are not simply an individual problem, which could be solved alone, but rather a global phenomenon that requires attention; hence my research is to understand identity further. To delve into the research topic, I am currently studying “Narrative Therapy and Narrative Analysis” in Clinical Education Laboratory under the Graduate School of Human-Environment Studies. Using the individual’s personal narratives, I hope to become a multilingual counselor.

Q1 Why did you choose ISI?

I encouraged myself to choose ISI because I could not find any other faculty like ISI, especially in my country. Having the freedom to choose what you want to do even in the middle of your university journey is something that I did not expect to be a very humbling experience. Also, I always thought that being surrounded by interesting people with different sets of motivations and backgrounds would broaden my horizon and strengthen my knowledge here in my university life. Moreover, knowing that the areas of ISI are specifically made to be an ‘issue-based’ program, I was amazed by the opportunity to make my own study and research directly impactful to society.

Q2 What were the good things about being admitted to ISI?

The faculty and the staffs are the people that I believe will always have my back and stand there for any kind of support for me academically. ISI is an environment where people are building their dreams, and the diversity of passion of each person amazes me. It is a truly humbling experience to learn about the different dreams and visions of ISI students and how everyone utilizes ISI to the maximum capacity to help them reach their dream.

Moreover, being in ISI created a problem-solving mindset within me, where I can combine different disciplines to tackle complex issues in society and discuss the issues with many different professors with different expertise.

Q3 What is your theme for DP and what is your dream?

I mainly focus on the area of Earth and Environment so that I can do coral reef conservation projects in the future. Also, the focus of my DP is to obtain the necessary information or parameters to conduct the protection of coral reef ecosystems in the southern islands of Japan. By identifying the anthropological, geomorphological, and geological aspects of coral reef threats, I hope that I could learn and develop important points to build concrete evidence to protect the coastal environments and help various research. This theme sparked an idea for me to make better movements for climate change in a significant manner. Objectively, being able to map and understand a designated area that could have anthropological activities and a high-level biodiversity area would be impactful for the social economy and the education of coastal communities.



Dhiva Althaf Pratamaさん

インドネシア　SMA Negeri Unggulan M.H. Thamrin Jakarta　2020年10月入学

教員紹介（2023年4月1日現在）

専任教員



教授・学部長
鏑木 政彦
KABURAGI Masahiko
【専門分野】
政治思想史



教授・副学部長
鬼丸 武士
ONIMARU Takeshi
【専門分野】
比較地域研究、
政治史



教授・副学部長
ローレンス ヨハン
LAUWEREYNS Johan
【専門分野】
認知神経科学



教授
荒谷 邦雄
ARAYA Kunio
【専門分野】
昆虫学、
生物多様性科学



教授
ドラモンド ダグラス
DRUMMOND Douglas
【専門分野】
Cytoskeletal Proteins, Molecular Biology



教授
郭 俊海
GUO Junhai
【専門分野】
応用言語学



教授
ハザリカ ヘマンタ
HAZARIKA Hemanta
【専門分野】
地盤工学、地震防災、
環境地盤工学



教授
稲葉 美由紀
INABA Miyuki
【専門分野】
国際ソーシャルワーク、
社会開発、公共政策、
老年学



教授
伊良皆 啓治
IRAMINA Keiji
【専門分野】
脳情報科学、
脳機能イメージング、
生体医工学



教授
菅 浩伸
KAN Hironobu
【専門分野】
自然地理学



教授
木實 新一
KONOMI Shin'ichi
【専門分野】
情報学



教授
益尾 知佐子
MASUO Chisako T.
【専門分野】
現代中国の政治外交、
国際関係論



教授
三木 洋一郎
MIKI Yoichiro
【専門分野】
医学教育学



教授
溝口 孝司
MIZOGUCHI Koji
【専門分野】
考古学



教授
永島 広紀
NAGASHIMA Hiroki
【専門分野】
歴史学、東洋史



教授
中村 真子
NAKAMURA Mako
【専門分野】
筋細胞生物学、
発生生物学



教授
大神 智春
OHGA Chiharu
【専門分野】
日本語教育学



教授
大河内 豊
OOKOUCHI Yutaka
【専門分野】
初期宇宙論、
統一理論



教授
施 光恒
SE Teruhisa
【専門分野】
政治理論、政治哲学



教授
吉田 謙太郎
YOSHIDA Kentaro
【専門分野】
環境経済学、政策学



准教授
ブレジナ ヤン
BREZINA Jan
【専門分野】
偏微分方程式



准教授
藤岡 悠一郎
FUJIOKA Yuichiro
【専門分野】
地理学



准教授
舟橋 京子
FUNAHASHI Kyoko
【専門分野】
人骨考古学



准教授
ホール アンドリュー
HALL Andrew
【専門分野】
日本・東アジア近代史



准教授
ハズウエル クリストファー ガレス
HASWELL, Christopher Gareth
【専門分野】
Sociolinguistics (English as a Lingua Franca)



准教授
稲垣 紫緒
INAGAKI Shio
【専門分野】
物性物理学



准教授
ジャリリナスラバディ サイード
JALILINASRABADY Saeid
【専門分野】
Geothermal Energy, Exergy



准教授
金山 浩司
KANAYAMA Koji
【専門分野】
科学史



准教授
姜 益俊
KANG IkJoon
【専門分野】
生態毒性学



准教授
木附 晃実
KITSUKI Akinori
【専門分野】
開発経済学、
応用ミクロ計量経済学、
政策評価



准教授
李 暁燕
LI Xiaoyan
【専門分野】
知識科学、
第二言語習得論



准教授
長谷 千代子
NAGATANI Chiyoko
【専門分野】
文化人類学



准教授
中野 伸彦
NAKANO Nobuhiko
【専門分野】
岩石学



准教授
大賀 哲
OGA Toru
【専門分野】
国際政治学



准教授
岡田 昌也
OKADA Masaya
【専門分野】
情報学、
行動情報処理、
マルチモーダル
センシング



准教授
坂口 英継
SAKAGUCHI Hidetsugu
【専門分野】
複雑系科学、物理学



准教授
仙田 量子
SENDA Ryoko
【専門分野】
地球化学



准教授
瀬平劉 アントン
SEVILLA-LIU Anton
【専門分野】
哲学、臨床教育学



准教授
スルチョードリ ビシュワジット
SURCHOWDHURY Vishwajit
【専門分野】
ストレス生理学



准教授
田尻 義了
TAJIRI Yoshinori
【専門分野】
考古学



准教授
田島 博士
TASHIMA Hiroshi
【専門分野】
熱機関工学



准教授
徳久 悟
TOKUHISA Satoru
【専門分野】
サービス・デザイン、
ヒューマン・コンピュータ・
インタラクション、
イノベーション・マネジメント



准教授
内田 諭
UCHIDA Satoru
【専門分野】
言語学



准教授
脇 隼人
WAKI Hayato
【専門分野】
最適化理論



准教授
山尾 大
YAMAO Dai
【専門分野】
中東政治、国際関係、
比較政治



講師
古川 不可知
FURUKAWA Fukachi
【専門分野】
文化人類学、
ヒマラヤ地域研究



講師
栗田 健一
KURITA Kenichi
【専門分野】
応用経済学



講師
松尾 和典
MATSUO Kazunori
【専門分野】
昆虫学、農学



講師
ヴァイス ダーヴィッド
WEISS David
【専門分野】
日本・東アジアの
思想史



講師
山本 明日香
YAMAMOTO Asuka
【専門分野】
開発経済学、
インド経済論



助教
足立 達朗
ADACHI Tatsuro
【専門分野】
岩石学、地質学



助教
田尾 周一郎
TAO Shuichiro
【専門分野】
素粒子物理学

科目担当教員

教授
カアベイロ ホセ
CAAVEIRO Jose
【専門分野】
タンパク質工学、構造生物学

教授
百村 帝彦
HYAKUMURA Kimihiko
【専門分野】
自然資源管理

教授
伊藤 幸司
ITO Koji
【専門分野】
日本中世史

教授
桑原 義博
KUWAHARA Yoshihiro
【専門分野】
鉱物学

教授
松永 典子
MATSUNAGA Noriko
【専門分野】
多文化共生教育論

教授
中野 等
NAKANO Hitoshi
【専門分野】
日本近世史

教授
波潟 剛
NAMIGATA Tsuyoshi
【専門分野】
比較文学

教授
大野 正夫
OHNO Masao
【専門分野】
地球物理学

教授
大津 隆広
OTSU Takahiro
【専門分野】
英語学

教授
林 哲也
HAYASHI Tetsuya
【専門分野】
微生物学

教授
内田 誠一
UCHIDA Seiichi
【専門分野】
パターン認識

教授
山口 裕幸
YAMAGUCHI Hiroyuki
【専門分野】
社会心理学

教授
山下 潤
YAMASHITA Jun
【専門分野】
環境地理学

教授
楠見 淳子
KUSUMI Junko
【専門分野】
分子進化学

准教授
阿部 康久
ABE Yasuhisa
【専門分野】
人文地理学

准教授
オーガスティン マシュー
AUGUSTINE Matthew
【専門分野】
日本近現代史

准教授
何 昕霓
Ho, Hsin-Ni
【専門分野】
触覚情報学

准教授
金子 晃介
KANEKO Kosuke
【専門分野】
マルチメディア情報学

准教授
笠原 玉青
KASAHARA Tamao
【専門分野】
河川水文

准教授
木田 新一郎
KIDA Shinichiro
【専門分野】
海洋物理学

准教授
北澤 満
KITAZAWA Mitsuru
【専門分野】
経済史

准教授
小林 俊哉
KOBAYASHI Toshiya
【専門分野】
科学技術社会論

准教授
荻野 由紀子
OGINO Yukiko
【専門分野】
内分泌学

准教授
岡本 剛
OKAMOTO Tsuyoshi
【専門分野】
システム神経科学

准教授
清野 聡子
SEINO Satoquo
【専門分野】
生態工学

准教授
武田 友加
TAKEDA Yuka
【専門分野】
応用経済

講師
松枝 佳奈
MATSUEDA Kana
【専門分野】
比較文学・比較文化

講師
田北 雅裕
TAKITA Masahiro
【専門分野】
まちづくり

助教
阿部 哲
ABE Satoshi
【専門分野】
文化人類学

助教
稲村 徳州
INAMURA Tokushu
【専門分野】
イノベーション手法

共創学部の入試について

九州大学は、入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価する全学的な入試改革を推進しています。この方針に基づいて、共創学部では「知識を問う入試から、能力を見極める入試への転換」を掲げ、志願者の能力を複数の観点から見極めるために、本学部が掲げるアドミッション・ポリシーに準じて、次のような特色をもつ入学者選抜を実施します（アドミッション・ポリシーは共創学部ホームページをご覧ください）。

https://kyoso.kyushu-u.ac.jp/pages/about/policy/

1. 4種類の選抜試験

本学部のアドミッション・ポリシーに述べた「求める学生像」の4つの観点から、志願者の能力や態度等を見極めるために、「総合型選抜」「学校推薦型選抜」「一般選抜」「国際型入試」の4種類の選抜試験を実施します。また、それぞれの入試類型の中でも複数の観点を組み合わせ、志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価します。

2. 文理共通問題

一学部一学科の学部として、独自入試では文理共通の試験問題を課します（留学生に対する試験を除く）。理系クラスで学んできた志願者も、文系クラスで学んできた志願者もどちらも解答可能な問題を用意し、いずれかが不利になることのないよう配慮します。

3. 志望理由書

これまでにない新しい学部であることに鑑み、すべての入試類型で「志望理由書」の提出を求め、学部への理解や適性などを確認します。

総合型選抜（募集人員:20人）

共創学部総合型選抜では、大学入学共通テストは課さず、第1次選抜及び第2次選抜を行います。

〈出願期間〉9月中旬
〈選抜期日〉10月上旬～中旬（第1次選抜）、11月上旬（第2次選抜）
〈合格発表〉11月中旬

入試のポイント

第1次選抜と第2次選抜のいずれの選抜でも「求める学生像」の4つの観点と大学で修学するための基礎学力という観点から評価します。第1次選抜では、調査書、志望理由書、活動歴報告書を総合的に評価して合否を判定します. 活動歴報告書では正課、正課外の諸活動が評価の対象となります。第2次選抜では、実際に大学で行われる講義（人文社会系と自然科学系の2つの講義）を受講した上で執筆するレポート、集団討論、小論文、面接の成績を総合的に評価して合否を判定します。

学校推薦型選抜（募集人員:10人）

高等学校等の長からの推薦をもとに、学校推薦型選抜を実施します。推薦できる人数は、1校につき1人とし大学入学共通テストを課し、第1次選抜及び第2次選抜を行います。

〈出願期間〉11月下旬
〈選抜期日〉12月上旬～中旬（第1次選抜）、1月下旬～2月上旬（第2次選抜）
〈合格発表〉2月中旬

入試のポイント

第1次選抜と第2次選抜のいずれの選抜でも「求める学生像」の4つの観点と大学で修学するための基礎学力という観点から評価します。第1次選抜では、推薦書、調査書、志望理由書、活動歴報告書を総合的に評価して合否を判定します。活動歴報告書では正課、正課外の諸活動が評価の対象となりますが、特に高校での正課における学習活動を高く評価します。第2次選抜は、プレゼンテーションと面接を実施します。第1次選抜の評点、第2次選抜の評点、大学入学共通テストの「国語」「数学」「英語」の合計点、これらを総合して合否を判定します。大学入学共通テスト「英語」については、指定の英語能力試験の成績を提出することにより、大学入学共通テスト「英語」の得点として利用することが可能です。ただし、この場合においても、大学入学共通テスト「英語」の受験は必須です。（詳細は募集要項を参照のこと）

一般選抜（募集人員:65人）

大学入学共通テストと個別学力検査の合計点、志望理由書を総合的に評価して合否を判定します。本学部では幅広い分野の基礎知識と問題解決のための思考力をもった学生を求めています。そのような志願者を選抜するために、大学入学共通テストでは幅広い教科・科目を課し、高等学校で修得すべき基礎的な知識の学習の有無を評価します。また、個別学力検査では、「数学」「英語」「小論文」を課し、本学部で学ぶために求められる学力や思考力を評価します。

〈出願期間〉1月下旬～2月上旬
〈選抜期日〉2月25日、26日※前期日程のみ
〈合格発表〉3月8日

国際型入試（募集人員:10人）

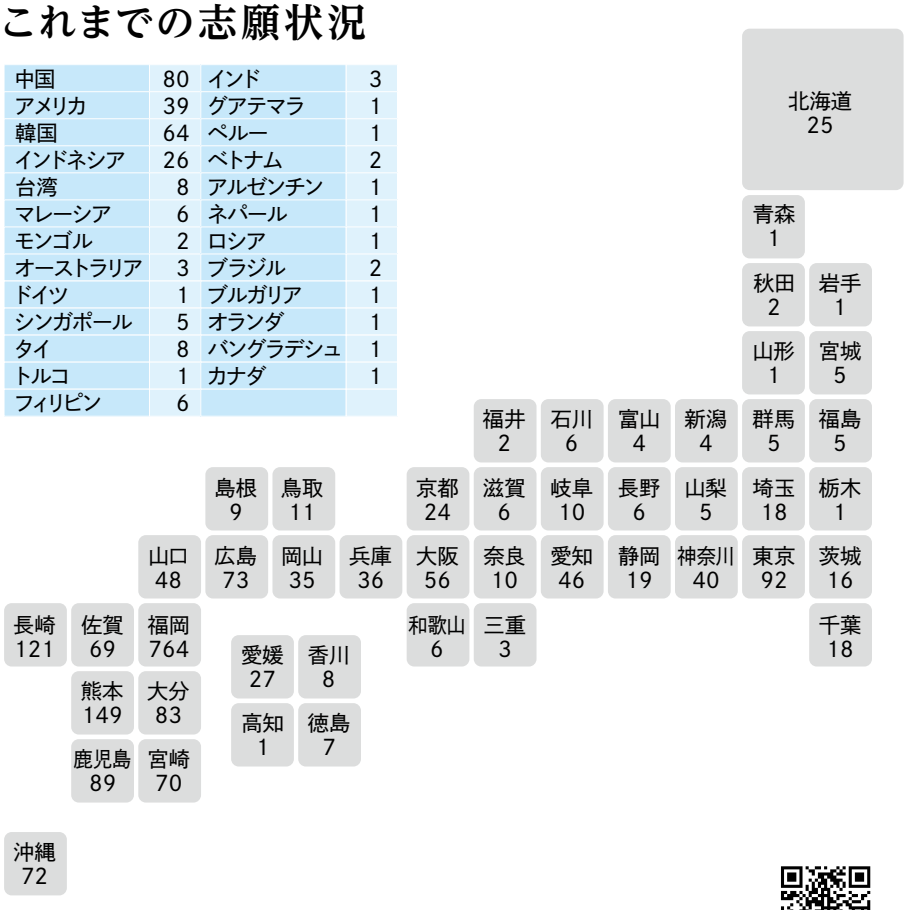
帰国生徒と海外留学生向けの入学試験です。帰国生徒選抜では、海外での学習状況を配慮し大学入学共通テストを免除しますが、個別学力検査で数学と英語を課し、本学部で学ぶための基礎的な学力があるかどうかという点から評価をします。また、面接、志望理由書を含む出願書類を「求める学生像」の観点から評価し、これらを総合して合否を判定します。
海外留学生向けには私費外国人留学生入試（4月、10月入学）を実施します。本学部で学ぶための基礎的な学力があるかどうかという点から日本留学試験等の成績を求めます。また、面接、志望理由書を含む出願書類をアドミッションポリシーの「求める学生像」の観点から評価します。

令和5（2023）年度入試結果

入試区分（定員）		志願者数	合格者数	倍率
総合型選抜（20）		121	20	6.05
学校推薦型選抜（10）		60	11	5.45
一般選抜（65）		191	69	2.77
国際型入試（10）	帰国（若干名）	2	0	2.25
	私費（4月）（若干名）	17	3	
	私費（10月）（若干名）	17	13	
合計（105）		408	113	—

これまでの志願状況

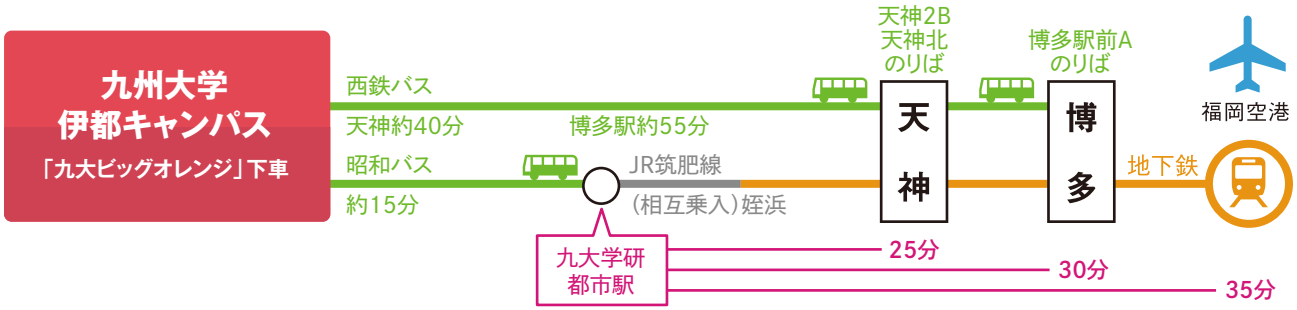
中国	80	インド	3
アメリカ	39	グアテマラ	1
韓国	64	ペルー	1
インドネシア	26	ベトナム	2
台湾	8	アルゼンチン	1
マレーシア	6	ネパール	1
モンゴル	2	ロシア	1
オーストラリア	3	ブラジル	2
ドイツ	1	ブルガリア	1
シンガポール	5	オランダ	1
タイ	8	バングラデシュ	1
トルコ	1	カナダ	1
フィリピン	6		



※詳しい入試情報は、入学者選抜概要や募集要項をご覧ください。

九州大学伊都キャンパス アクセス情報





■福岡空港から

「福岡空港」駅（地下鉄空港線）→「姪浜」駅（JR筑肥線へ乗換）→「九大学研都市」駅下車→昭和バス「九大伊都キャンパス」行に乗車

「福岡空港」駅（地下鉄空港線）→「博多」駅下車→「博多駅前A」停留所から直行バス（西鉄バス「[急行]九大伊都キャンパス」行に乗車）

■博多から

「博多」駅（地下鉄空港線：姪浜・唐津方面行に乗車）→「九大学研都市」駅下車→昭和バス「九大伊都キャンパス」行に乗車

[博多駅前A]停留所から直行バス（西鉄バス「[急行]九大伊都キャンパス」行に乗車）

■天神から

「天神」駅（地下鉄空港線：姪浜・唐津方面行に乗車）→「九大学研都市」駅下車→昭和バス「九大伊都キャンパス」行に乗車

「天神2B（ソラリアステージ前）」および「天神北（3）」停留所から直行バス（西鉄バス「[急行]九大伊都キャンパス」行に乗車）

■佐賀（唐津）方面から

JR筑肥線（姪浜・福岡空港方面行に乗車）→「筑前前原」駅下車→糸島市コミュニティバス「九大線」に乗車

JR筑肥線（姪浜・福岡空港方面行に乗車）→「九大学研都市」駅下車→昭和バス「九大伊都キャンパス」行に乗車

お問い合わせ

九州大学学務部基幹教育・共創学部課（伊都キャンパスセンター１号館２階）

〒819-0395 福岡市西区元岡744　電話番号：092-802-5890　メールアドレス：gazkyoso@jimu.kyushu-u.ac.jp

九州大学

詳しい情報は、共創学部ホームページをご覧ください。

https://kyoso.kyushu-u.ac.jp/

2023.7発行

表紙デザイン：武田奈々（共創学部卒業生1期生）